



案内図



【交通】
 ・小田急線生田駅下車 徒歩 15分
 ・JR南武線中野島駅下車 徒歩 12分



川崎市上下水道局キャラクター「ウォーターン」

令和7年3月改訂

川崎市上下水道局
生田浄水場

〒214-0038
 神奈川県川崎市多摩区生田 1-1-1
 TEL 044 (944) 2131
 FAX 044 (944) 2770



さく井

○直径6m、深さ10mの螺旋構造の浅井戸。多摩川の伏流水を汲み上げ生田浄水場へ送っています。
 取水能力 工水さく井 50,000m³/日 6井
 取水ポンプ 水中モーターポンプ 口径250mm×8台



稲田取水所

○多摩川の表流水を取り入れ、送砂槽で砂分を除去した水を浄水場へ送っています。二ヶ所用水に流入した表流水をスクリーンによって大きな浮遊物などを取り除いて取水しています。
 取水能力 200,000m³/日

生田浄水場の取水・送水・配水系統図



上河原堰堤

○多摩川の水を堰き止め二ヶ所用水に導いている。昭和20年に現在の堰となりました。



平間配水所

○飲み水を影塩素処理をして工業用水として配水しています。



生田浄水場



川崎市上下水道局



川崎市



生田浄水場

沿革

生田浄水場は、川崎市の北西部に位置し、産業の発展や人口の急増による水需要に対処するため、多摩川の伏流水を水源とし、昭和13年に通水を開始しました。

また、昭和37年には、地下水と多摩川の表流水を水源として、工業用水道の給水を開始しました。

現存する最も古い浄水場であり、水道と工業用水道の共用浄水場として、運営してきましたが、給水能力の見直しに伴い、平成28年3月に水道事業としての機能を廃止し、現在は、工業用水道のための給水を行っています。

現在の給水能力は一日あたり245,000m³で、工業都市川崎の発展を支えています。

概要

所在地 神奈川県川崎市多摩区生田1丁目1番1号

標高 着水井 26.85m

用地面積 90,173.05m²

水源 多摩川表流水・地下水

浄水方法 凝集沈でん→配水

施設能力

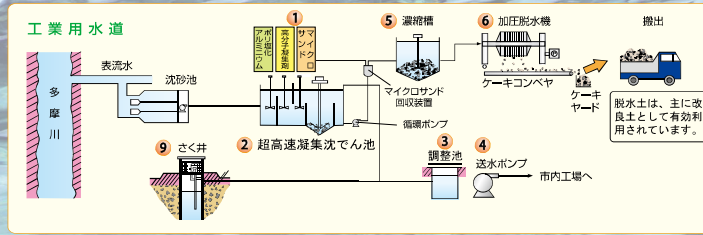
工業用水道 200,000m³/日

*地下水は無処理

施設配置図



浄水処理工程図



調整池 3

沈でん池で処理した水とさく井の水がブレンドされます。
容量 3,736m³ 水深 5.2m



送水ポンプ設備 4

調整池の水を市内工場へ送水します。
口径 600mm×450mm
送水量 3,420m³/h×4台 揚程 74m



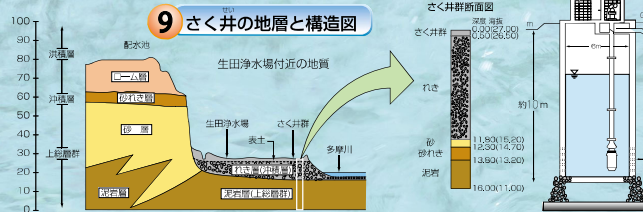
管理室 7

集中監視分散制御方式で、全ての施設について監視と制御を行っています。各施設間は光ケーブルでループ状に結ばれており、万一の断線事故があっても制御を行う安全対策を採用しています。



自家発電設備 8

停電した場合のバックアップとして活用しています。
型式 単相解放サイクル1軸式
出力 2317kW



ポリ塩化アルミニウム注入設備 1

原水濁度から注入率を算出して凝集剤である薬品の注入を行っています。
注入機 回転容量積型一軸偏心ネジポンプ
容量 8.0L分×3台



超高速凝集沈でん池 2

フランスから導入した沈でん処理技術で平成18年3月に完成しました。約18分という短い時間で水処理ができます。
処理水量 (1池あたり) 67,000m³/日 池数 3



濃縮槽 5

沈でん池で沈降した汚泥を濃縮します。
型式 連続送寄機付中央集泥方式
容量 2,646m³ 池数 2



加圧脱水機 6

濃縮された汚泥を脱水します。
型式 布走行式圧搾機横溝付
ろ布面積 204m²×2台 脱水機速度 10Kg-D5m²-h
スラッジ濃度 4% 脱水ケーキ含水率 53%±5

10 生田浄水場跡地の有効利用

平成28年3月から生田浄水場は、水道事業の浄水場としての機能を廃止し、工業用水道事業専用の浄水場となりました。今まで使用していた土地については、更新用地として確保しつつ、ふれあい広場や多目的広場の他、民間事業者が整備を行うスポーツ広場として活用します。

ふれあい広場

- ・じゃぶじゃぶ池やあずまやを配置した親水施設
- ・応急給水拠点やマンホールトイレの整備
- ・生田浄水場の沿革等についてのパネル展示



多目的広場

- ・地域住民などが日常的に利用できる広場
- ・地域におけるスポーツ活動ができる広場
- ・地域活動等の多用途に使用できる広場

